

2.8 伊勢湾台風による氾濫（位置 No.⑰）	
発生年月日	昭和 34 年（1959）9 月 26 日
発生地点	長野県白馬村松川・平川
緯度・経度	36.7070, 137.8472（松川の氾濫開始点）、 36.6843, 237.8432（平川の氾濫開始点）
発生誘因	伊勢湾台風（台風 15 号）
天然ダムの形成	有 ・ ①無
被害状況	人的被害：不明、家屋被害：114 戸
災害概要	伊勢湾台風（台風 15 号）の集中豪雨により、姫川西側の白馬山系の山地で崩壊が多発し、土石流となり松川や平川を流下しました。午後 10 時頃、松川右岸の上マグロ地籍の堤防が 300m に渡って決壊し、濁流が白馬町北部（白馬村中心部）を襲いました。このため平川神社参道が本流となり、白馬北小学校を始め木流川以北の 114 戸が被害を受け、収穫直前の水稲が土砂に埋まりました。この被害は、八方、八方口、白馬町、大出の広範囲に及び、被害総額は白馬村 2 億 9 千万円、小谷村で 1 億 2 千万円と推定され、国の災害救助法が適用されました。



位置図

国土地理院「標準地図」に加筆

◎ 松川・平川の氾濫災害

昭和 34 年（1959）9 月 26 日の伊勢湾台風による集中豪雨では、北城（白馬村）の総雨量は 159mm に上りました。白馬岳周辺の荒廃斜面で崩壊が多発し、土石流となって松川・平川を流下しました。このため、松川右岸の上マグロ地籍で堤防が決壊しました。これにより、濁流が白馬村中心部を襲い、白馬北小学校をはじめ 114 戸が被害を受け、収穫直前の水田が土砂に埋まりました。被害総額は 2 億 9 千万円と推定され、国の災害救助法が適用されました。小谷村も大きな被害を受け、国鉄大系線が平川の氾濫によって不通となり、道路や堤防も多数箇所が決壊・流失

しました。この災害による被害総額は 1 億 2 千万円と推定されています。

白馬村では、水害対策委員会を設置し、上流の水防工事推進について、国や県へ陳情を行いました。この年は、7 月にも梅雨末期の豪雨による災害があり、その約 2 ヶ月後の 9 月に伊勢湾台風が来襲したため、災害を一層激しいものになりました。

昭和 34 年（1959）伊勢湾台風災害当時の様子を以下の写真 2.35～写真 2.37 に示します。



写真 2.35 白馬町旧役場東
（白馬村役場建設課，2001）



写真 2.36 流出家屋
（白馬村役場建設課，2001）



写真 2.37 松川橋（現国道 148 号）流失により
国鉄鉄橋を利用
（白馬村役場建設課，2001）

◎災害当時の小谷村の様子

小谷村誌編纂委員会（1993）では、災害当時の小谷村の様子を次のように述べています。

九月二十六日午後十時三十分、小谷村は、姫川溪谷を通過した台風十五号の直撃を受けた。村内至る所に被害を蒙り、その被害総額は1億2,000万円にもものぼった。

その生々しい爪痕を、「館報おたり第一九号（十月二十日号）」は、一面全部を使って次のように報じている。

災害地に行く-ひどかった雨中地区-

〔平岩から下里瀬まで略〕

藤の宮の決壊地籍で自転車を捨てて燕岩に渡る。刈入れ寸前の稲穂が河原と化した田んぼのあちこちに砂に埋まっているのがみえる。約二町歩はあろうか。対岸へ渡る宮本橋は架っていた位置を知ることすら出来ない。対岸の水田も二・三町歩刈入れ寸前でやられたらしい。やがて最も被害のあった雨中に入る。両側の家は殆んどない。三角部を全部吹き飛ばされて四角になっている家もある。特に出された家財道具や応急修理の材料が道一杯で足の踏み場もない。「台風がこんなにひどいもんだとは思わなかった。」という人々をうかつに責められない程今度の台風は大きかったのだ。

きわどい所まで流されてしまった裏側の堤防は、雨中の人々を「早くなんとかしなければ後は雨の降る時はおちおち眠れない」不安に追い込んでいる。横倒しになっている直径三十糎（30 cm）もある大木片付に大忙しの被災者に心から見舞いを述べて月岡に向かう。

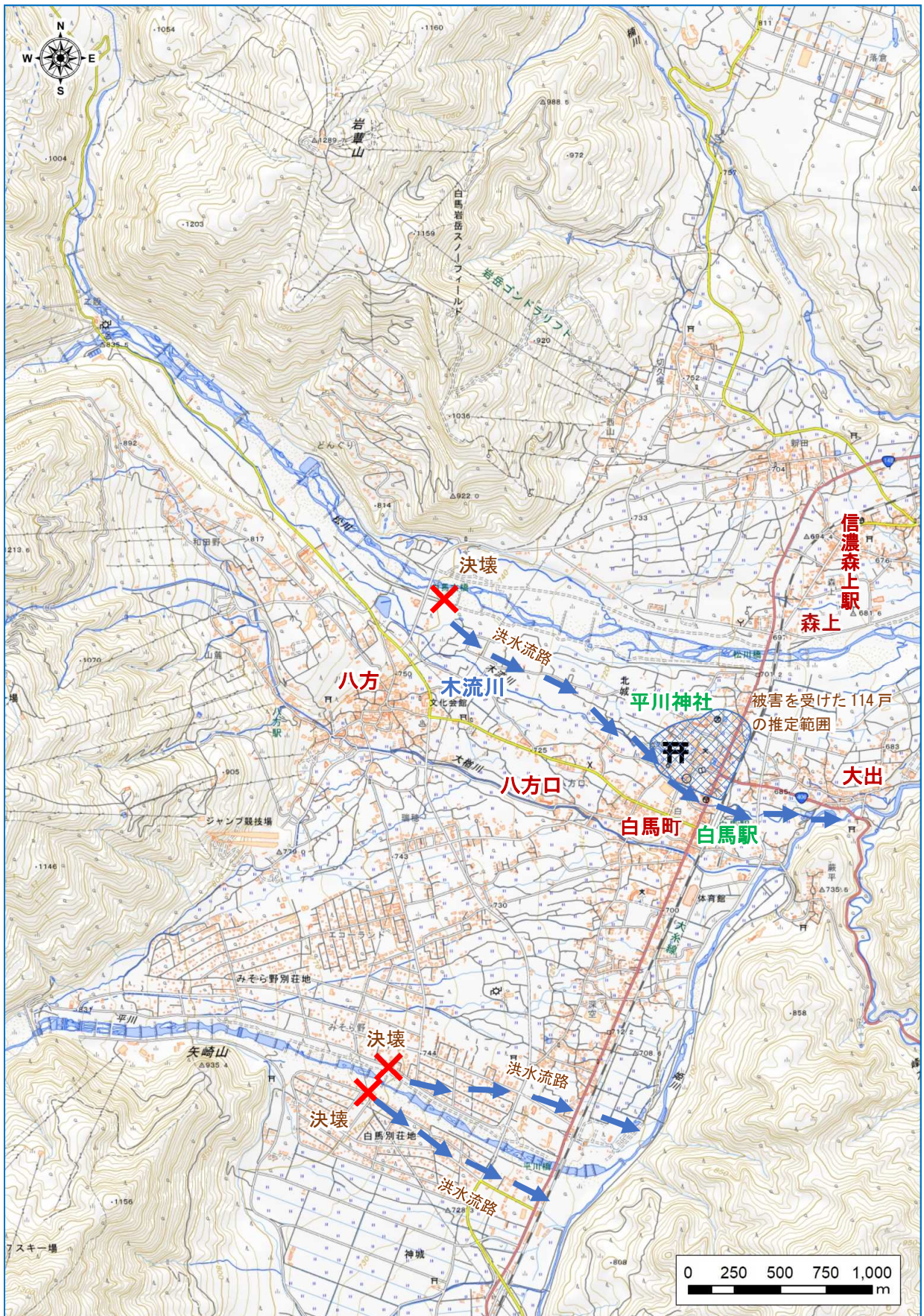


図 2.34 松川・平川流域（北城盆地）の地形図（地理院地図に加筆）

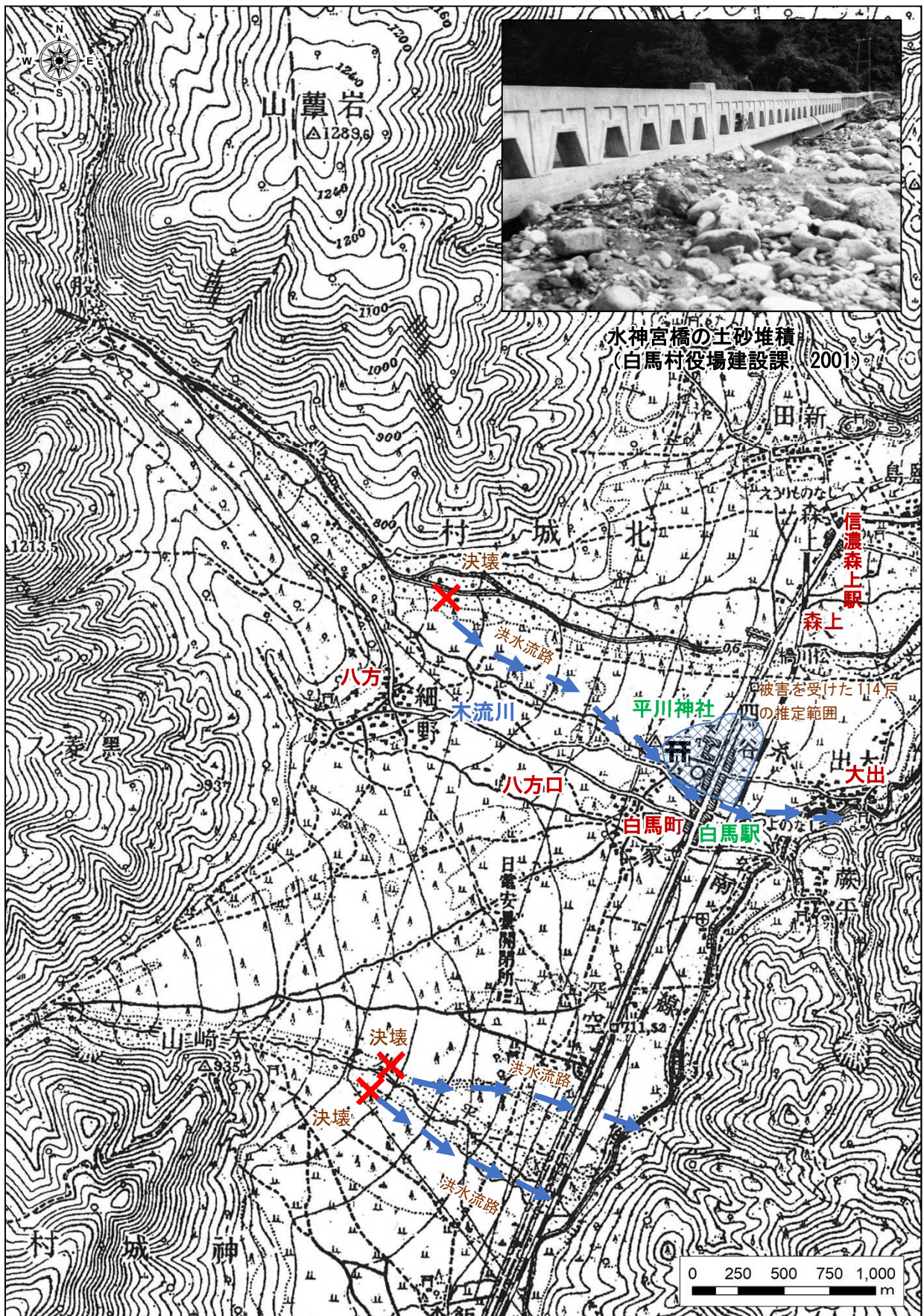


図 2.35 松川・平川流域（北城盆地）の旧版地形図（1/50,000 旧版地形図、「白馬岳」昭和 28 年（1953）応修に加筆）